

齋藤十郎 GEA会長

(2009年10月16日 開会式挨拶)

皆さん、おはようございます。本日は皇太子殿下のご臨席を仰ぎ、また、鳩山由起夫内閣総理大臣はじめ、小沢環境大臣など関係閣僚にもご出席を賜り、本GEA国際会議を開催できますことは誠に光栄であり、主催者を代表して会議開催にご尽力いただいた関係各位のご努力にあらためて厚く感謝を申し上げます。

さて、先月、国連において「気候変動に関する首脳会合」が開催され、鳩山総理におかれては、2020年までに1990年比CO₂、25%削減の中期目標を国際公約されました。まさしく、この意欲的な取り組みに貢献できるとお約束できるのが、本日から2日間にわたり開催される「低炭素社会を実現する科学技術と政策の推進」という今回の国際会議であると存じます。

今回の国際会議は、本年12月にデンマークにおいて開催される第15回気候変動枠組条約締約国会議、いわゆるCOP15も視野にいて、国内外からそれぞれの分野の第一線で活躍されている有識者にご参加いただき、熱心に議論していただくことになっております。低炭素社会を実現するということはエネルギー問題そのものであり、今後、経済成長を目指している発展途上国にとっては産業の活力を損なうのではないかという深刻な懸念がつきまといまいます。今回は特にアジア各国から環境保全に熱心に取り組んでおられる環境団体の代表にもご参加いただき、発展途上国の立場からも議論を交わしていただきます。

最後になりますが、本日、特別講演をしていただくエミル・サリムさんのお国、インドネシアはスマトラ沖大地震に見舞われ、大きな被害を出しておられます。心よりお悔やみとお見舞いを申し上げます。このようなときに会議にご参加いただくご心労はいかばかりかと存じ上げます。あらためて一刻も早い復旧を心からお祈りを申し上げます。本会議の成果が実り多いものであることを期待いたしまして、主催者を代表してのご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。